

神保原駅北まちづくり町民ワークショップ

駅北を歩こう

— 駅北の過去と現在を知る —

令和4年4月10日（日）9：00～
上里町

1

「神保原」
とは？

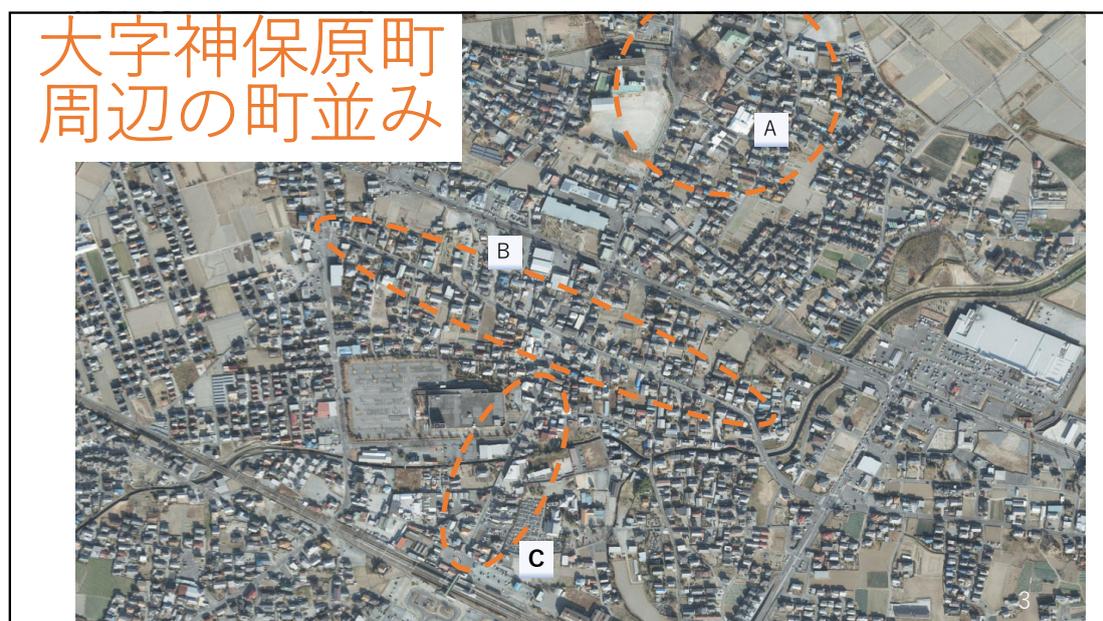
- 「神保原」の名称が誕生したのは、**今から130年以上前の明治時代**
- 1889年（明治22年）にそれ以前から存在する石**神**村（現在の石神社周辺）、忍**保**村（大字忍保）、八町河**原**村（大字八町河原）が合併

↓

「**神保原村**」が誕生

- **合併前の村名から一字ずつをとり村名に（「合成地名」）**
- さらに1954年（昭和29年）、七本木村ほか2か村と合併し、「上里村」となり、**駅周辺が大字神保原町に**

2



大字神保原町 周辺の特徴

- A 石神社周辺 : 神社の成立とともに発展
江戸時代以前に発生か
周辺は宅地のほか、農地が多い
- B 旧中山道周辺 : 中山道ができた江戸時代に発生
交通の発達により発展
宅地のほか、商店が多い
- C 神保原駅周辺 : 明治30年に「神保原駅」設置
駅の利用と共に発達
宅地、商店が多い

では、実際に駅周辺を歩いてみましょう！！



安盛寺境内の
蚕影神社
(こかげじん
じゃ)

カイコの幼虫（上）と繭（下）
川口浩『絹の知識百科』
染色と生活社 1991年より

- 蚕影神社とは、養蚕（ようさん）の守護神
→女神と考えられている
- 昭和12年、130名以上の養蚕農家と製糸会社「ヤマト組」によって設置
- 養蚕とは、カイコの幼虫を育て、できた繭から「生糸」をとる産業のこと
- 生糸を輸出することにより、国や地域が豊かになった

→神保原町周辺で養蚕が盛んだったことがわかる

6



ヤマト組とは

- ヤマト組とは、長野県岡谷市に本拠を置いた製糸工場
- 神保原駅設置後の明治36年（1903年）に「神保原工場」を操業開始
- 神保原駅設置の発起人の一人であった阿佐美教平が誘致
- 神保原町周辺は、鉄道による交通の便の良さと原料である繭が大量に手に入った

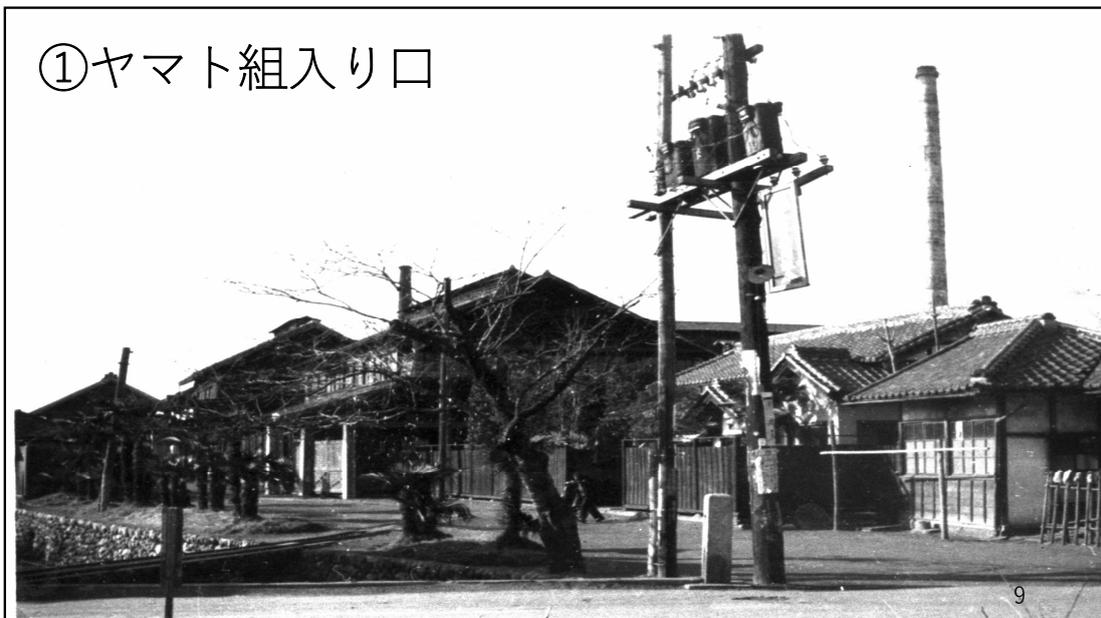
昭和初期の養蚕風景 7



ヤマト組の工場周辺の航空写真

8

①ヤマト組入り口

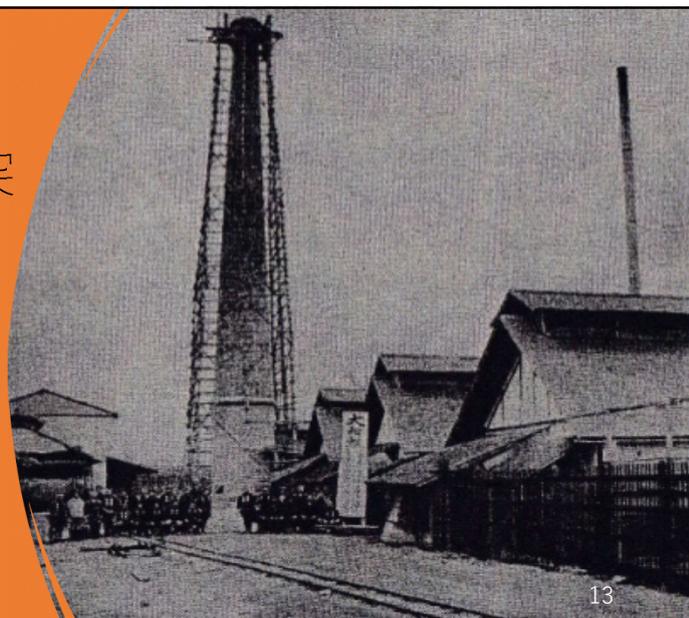


②ヤマト組 女工さんと土蔵 生糸の原料となる繭を貯蔵、保管 10



④ヤマト組煙突

- 糸を作る際に使うボイラーの煙突
- 町中ならどこからでも見えたかつての町のシンボル
- 右側に繰糸場が見える



⑤ヤマト組 西側

左側の建物は、繭を貯蔵する倉庫と思われる

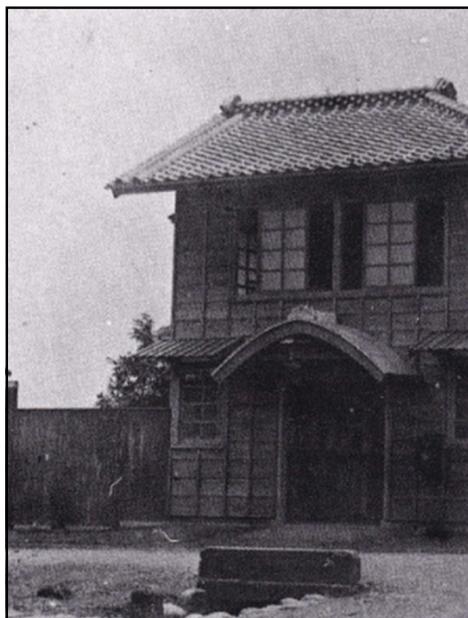


⑤ヤマト組 西側



⑥女工さん達が生活した寮





旧神保原郵便局

- 阿佐美教平らによって明治44年に設立
- 設置理由
 - ①ヤマト組神保原工場の稼働により、神保原の人口が増えた
 - ②女工さんなど、地方からの出稼ぎ労働者が多く、故郷との連絡をとりやすくするため（「郵便局設立趣意書」）

また、駅周辺には工場で働く人々を相手に商店などが作られた。

17



取り壊し前の旧神保原郵便局 (平成の初め頃)

18



.....

ヤマト組トロッコの 路線図（左）と現在の 航空写真（右）

- 現在も線路の跡が残る
- 工場と駅を直結
- 工場で使う石炭の搬入や製品の出荷に利用した

1940年代地籍図を
もとに作成

まとめ

今回のフィールドワークから、次のことが分かります。

- 神保原駅周辺は、かつてはカイコを育て繭を作る養蚕が盛ん
- 高崎線の開通と神保原駅の開設により、繭を原料とする製糸工場が誘致
- さらに、工場が稼働することで従業員や女工さんなど、各地から人々が流入
- 彼らを相手にした商店も増え、「神保原駅北」が作られた

21

22

駅北の良いところ

①場 所
良いところ

②場 所
良いところ

③場 所
良いところ

駅北の悪いところ

①場 所
悪いところ

②場 所
悪いところ

③場 所
悪いところ

1 班 (A、B 班)

距離 2.0 km
時間 80 分

